令和３年度　北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

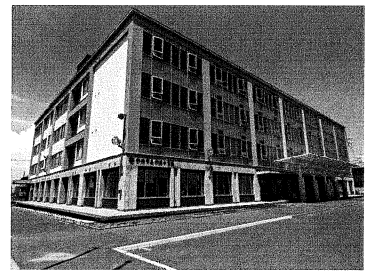
1　報　告　地　区：釧路市地区

2　事例報告学校名：釧路市立釧路小学校

3　報告者職・氏名：校長　佐々木　　豊

4　キ　ー　ワ　ー　ド：地域とともにあるコミュニティ・スクールの実践

1　はじめに



本校は、釧路市南部の高台に位置し、全校児童が280名、14学級（特別支援学級３学級）の規模の学校である。平成20年に３校の統合により創設された本校は、公官庁街や住宅街という閑静な旧日進小地区、釧路の歴史が古くから刻まれている旧東栄小地区、春採湖や千代の浦海岸など自然に恵まれた旧柏木小地区から成り、統合により校区が広範囲となり、地域や児童の状況も多様である。

開校から14年目を迎え、コミュニティ・スクール指定からも７年目となり、「地域と共に子どもを育む釧路小学校」としての特色が形作られつつある。本稿では、その取組の状況を紹介する。

2　釧路小学校のコミュニティ・スクール

(1)　立ち上げ

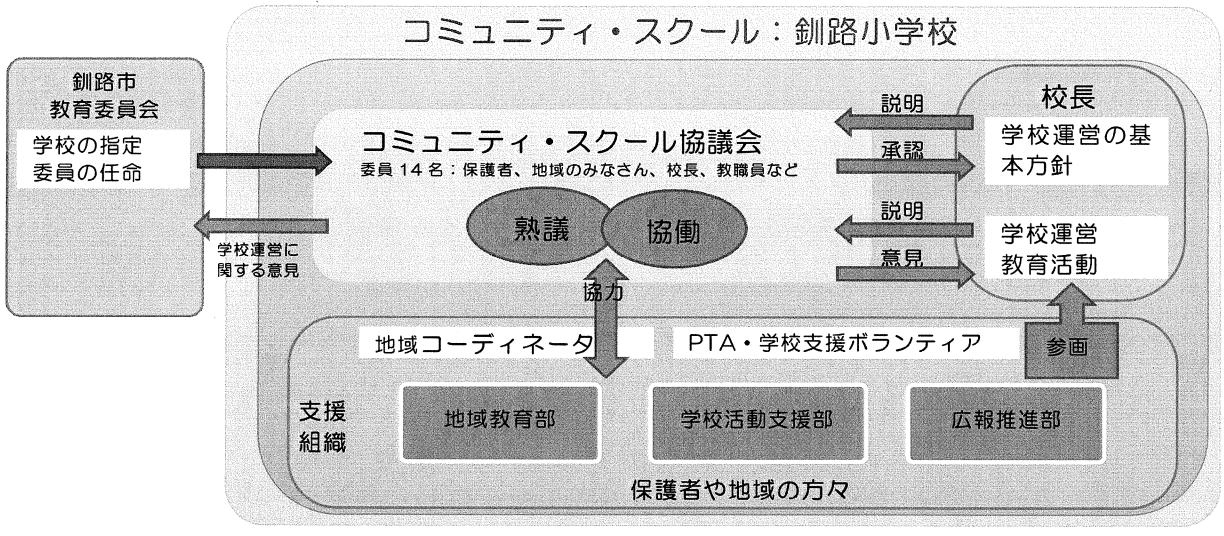
本校では、平成25年度にコミュニティ・スクール推進委員会を立ち上げ、地域参加型の学校づくりに向けた２年間の研究・検討を経て、平成27年度にコミュミティ・スクールに指定され「地域に開かれた学校」としてスタートした。

(2)　コミュニティ・スクール協議会

コミュニティ・スクール協議会委員に任命された委員は、年５回程度開催されるコミュニティ・スクール協議会（コミスク協議会）に参加する。コミスク協議会では、学校運営に対する承認、教育活動への意見、学校と地域の共通の課題などに対し熟議がなされ、学校運営への参画や学校との連携強化に係る事柄についての共通理解が図られている。

(3)　教育活動への関わり

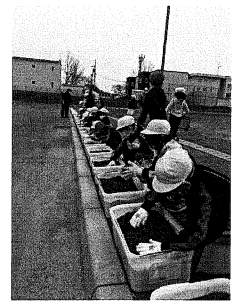
教育活動の支援組織に「地域教育部」「学習活動支援部」「広報推進部」を位置付けている。具体的な教育活動への関わりについては、釧路市地域学校協働本部事業との連携により配置され



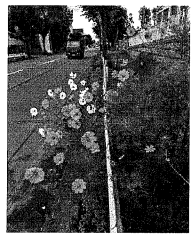
ている地域学校協働活動推進員が、学校支援ボランティアなどの派遣の調整を担っている。

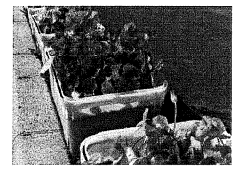
3　具体的な取組

(1)　地域教育部の取組



地域とともに取組む環境美化として、「コスモス街道」と「キンレンカ通り」の取組がある。コスモス街道の取組は、幣舞中学校から釧路小学校までの約２kmの舗道の植え込み枡にコスモスの種を蒔いて、コスモス街道をつくるというもので、釧路市の市民憲章推進協議会の事業へ協力する形で行っている。取組にあたっては、地域住民や保護者、中学生も一緒に参加し、たくさんの人との交流がある。また、キンレンカ通りの取組は、校地に釧路市の市花であるキンレンカのプランターを並べるもので、２年生が富士見坂キンレンカの会の方からの指導を受けながら取り組んでいる。

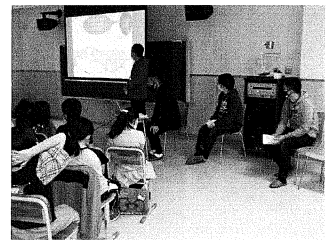


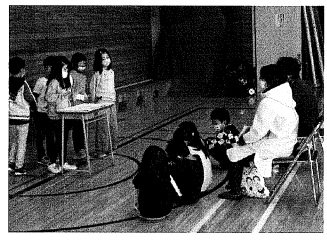


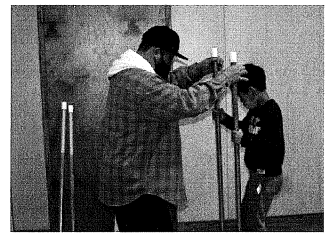
(2)　学習支援活動部の取組

日常的に、本校が計画している教育活動に、地域の方々を講師やサポーターとして招聘し、絵画や書道、家庭科の実習などでお世話になっている。

その中でも、年に１回、11月の土曜日に設定する地域公開参観日では、地域のことを地域の方から学ぶ特別授業を実施している。







例年、１年生は、地域の方々とふれあう「昔遊び体験」、２年生は、生活科での地域の方々とのふれあいの体験を報告する「えがおの秘密探検隊」の報告会、３年生は、釧路の地域おこしをしている団体の方々を招いての「釧路博士になろう」、４年生は、市内のアイヌ舞踊の保存会の方を招いての「アイヌ文化に親しもう」、５年生は、釧路ゆかりの石川啄木をテーマに啄木カルタを経験する「魅力ある釧路のまち」、そして６年生は、地域の専門家の指導を受けての「消しゴム版画」と、それぞれの学年に応じた地域学習を通して、地域のよさ、地域の大人のよさにふれる貴重な機会である。

4　おわりに

この２年間は、コロナ禍の下で地域行事が中止や縮小せざるを得ない状況にあったが、それでもなお、地域とのつながりを求めながらできるだけのことを行ってきた。

本校では、『地域を学ぶ（地域の教材化）・地域と学ぶ（人材活用）・地域とつながる（地域貢献）』をスローガンとして、総合的な学習の時間を中核に据えたカリキュラム・マネジメントに取り組んできた。その中で、子どもたちは、地域に対する思いや理解を深めるとともに、地域の大人と関わりながら、見守られているという安心を感じながら育っている。今後は、防災教育の視点で地域との連携を深め、命を大切にするコミュニティの中核としての役割を果たしていきたい。地域とも連携しながら命を守る取組について更に充実させていきたい。